

創業オーナーへ。自分の息子や娘を後継者にするなら覚悟した方がいい。時間をかけて慎重にやらないと会社を潰すことになりかねない。個人事業としてやっている程度のもなら単純

Smart Times

な世襲でいい。企業におけるトップは選挙で選ばれているわけではない。トップは就任してから社員からの信任を得るために懸命に働くことになるのが一般的だ。オーナー企業の場合、創業者は起業し



インディゴブルー会長

柴田 励司

1985年上智大文卒。マーサージャパン社長、カルチュア・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者（COO）などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年から会長。

成長させるために必死に働いている姿を見せている。意見が出なくなる。賢い社員ほど強いつながりがある。二代目以降はそうではない。

オーナーの息子だから娘

耳に入る情報が偏り、まず

ジュニアが何を話しても

意見が出なくなる。賢い社員ほど強いつながりがある。二代目以降はそうではない。

創業オーナーへの「進言」

と主張する前に社員の声に耳を傾ける。

だからトップになった、とまずジュニアの判断がずれ社員が認識していると、たてくる。その状況を憂い思

い切つて意見を言う人に攻撃的になったり、排除した

りするようになると組織が内部から腐っていく。

ジュニアに聞こえないいい材料とする。親の威光がない企業で評価されない場合に